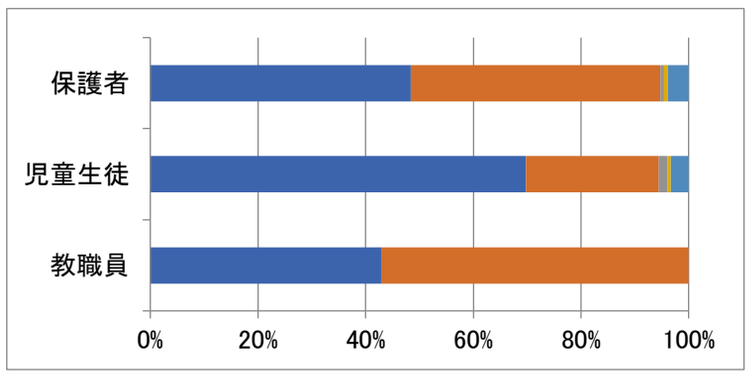
令和６年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

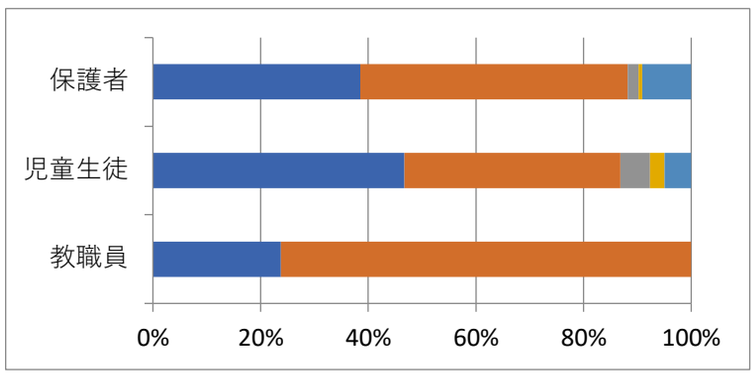
１ 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２ 自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



考察

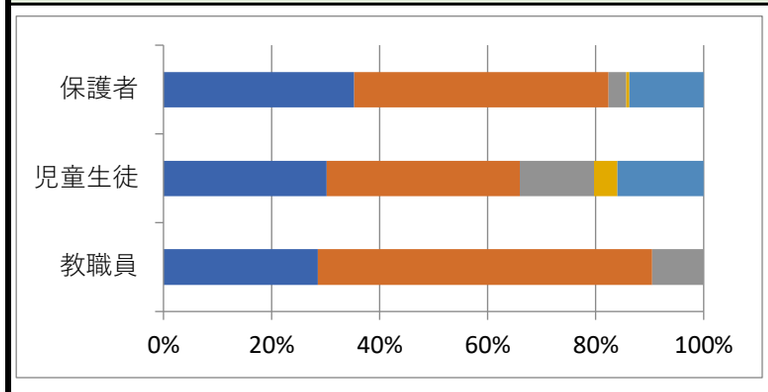
「1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」の項目では、保護者、児童、教職員ともに肯定的な評価が90％を超えている。今後も、人権教育・道徳教育・健康教育の充実を目指していく。

「2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」の項目では、保護者、児童ともに肯定的な評価が90％弱である。児童が考えたくなるような課題や思考力を問う発問を設定し、児童自ら対話をしながら学びを深めていく授業展開を進めていく必要がある。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３ 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）

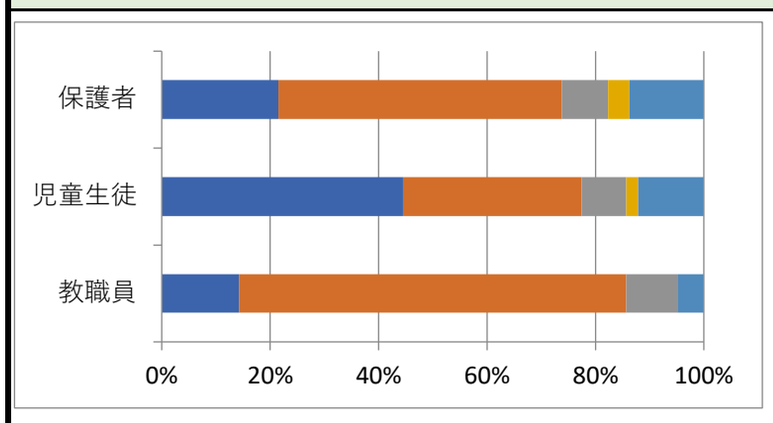


「3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」の項目では、保護者、教職員に比べ、児童の肯定的な評価の割合が低い。学校行事、児童会活動等の意義を、児童自身見つめ直すことが大切である。今後は、児童の考えを反映させた活動の場を多く設定することで、児童がより主体的に取り組むことができるようにしていく。加えて、活動の振り返りを行い、学校生活や地域社会に対して、自分はどうしていきたいのか考えを深めていくことができるようにしていく必要がある。

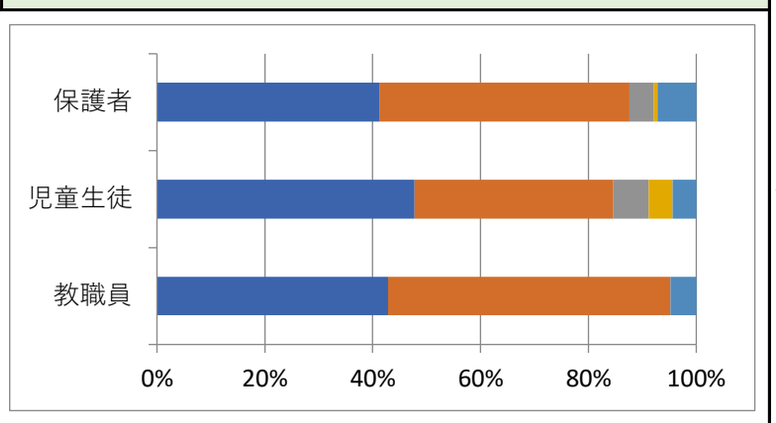
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４ ５ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。

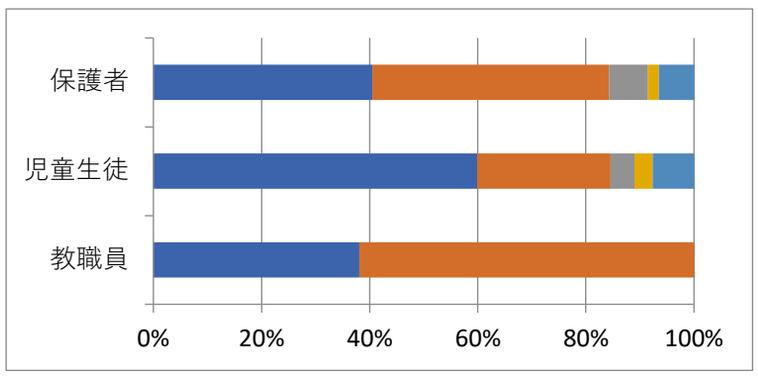


「4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の項目では、児童が学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりする授業において、保護者、児童ともに肯定的な評価が70％台である。問題解決的な学習過程を充実させ、児童自身が様々な方法で問題を解決できるようにしていく必要がある。対話については、児童の肯定的な評価が、保護者、教職員に比べ低い。校内研修等を通して、児童の発表から児童同士をつなげていく対話の在り方を具現化していくことが大切である。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

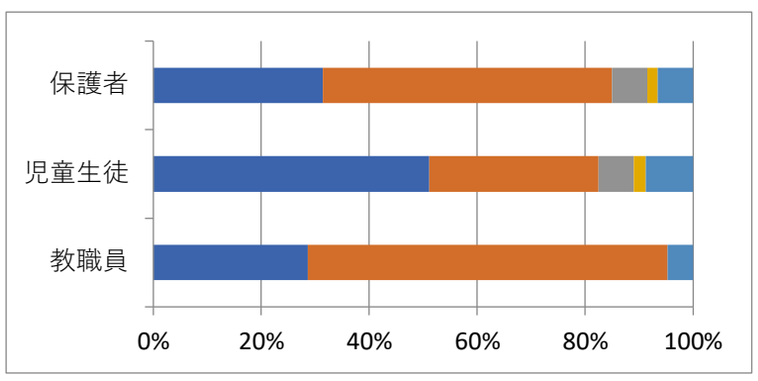
６ 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７ インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。

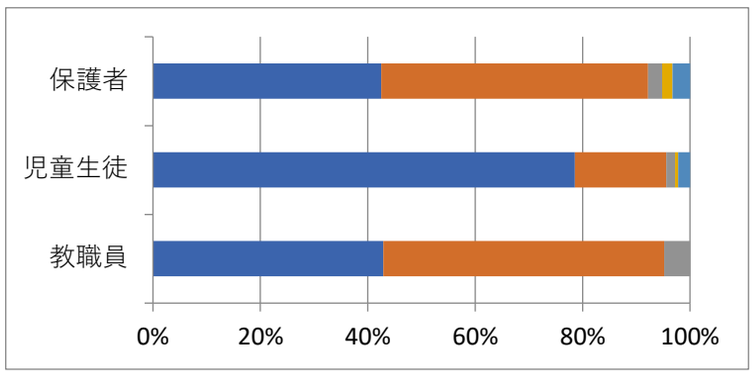


「6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」「7 インクルーシブ教育の推進」の項目では、保護者、児童の肯定的な評価は80％を超えている。一方で、保護者、児童の肯定的でない評価があり、本現状を真摯に受け止める必要がある。児童の心理的安全性を基盤とした教育活動のより一層の充実が必要である。

（3）最適な教育環境の整備

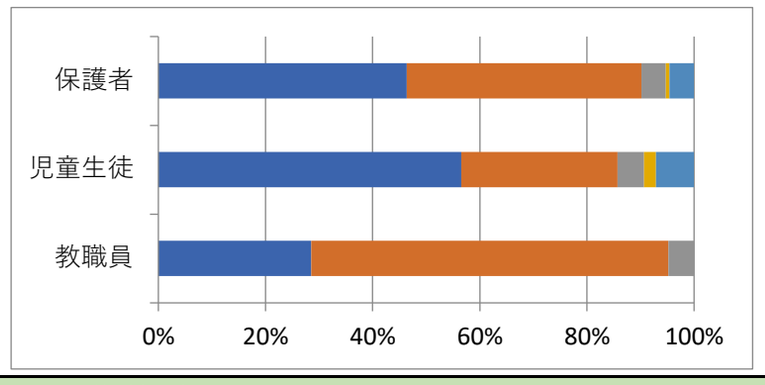
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。



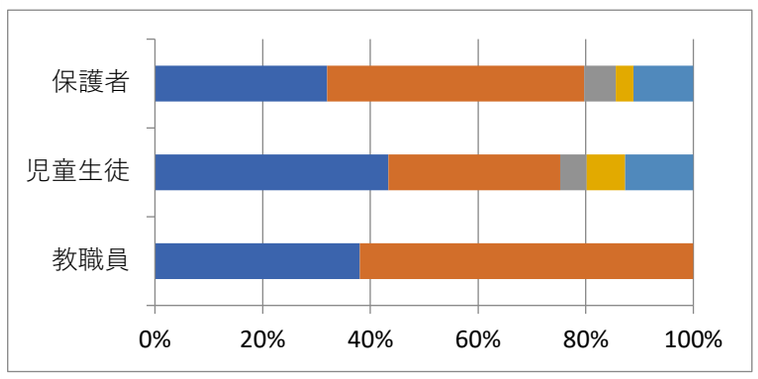
「8 安全・安心な園づくりの推進」の項目では、保護者、児童、教職員ともに肯定的な評価が90％を超えている。今後も継続して、本校の実態に応じた安全教育を進めていく。

「9 地域や家庭と連携した教育環境の整備」の項目も、肯定的な評価が全体的に90％近くになっている。地域・家庭は、学校教育に大変協力的である。より連携していくことができるよう教育環境を整備していく。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。



「10 こどもの最善の利益を守る環境づくり」の項目では、教職員に比べ、保護者、児童の肯定的な評価の割合が低い。特別活動の充実を図り、児童の意見が反映された学校生活を送ることができるようにしていく必要がある。また、児童や保護者が相談しやすい学校となるよう、様々な関係機関等との連携を進めながら、学校内・外で組織的に対応できるようにしていくことが大切である。

来　年　度　の　具　体　的　な　取　組　に　つ　い　て

○児童の「心理的安全性」を基盤として、学力と社会性を育む教育活動を学校全体で進めてきた。授業を中心として、相手の思いを受け止め、児童同士をつなげる対話を重視したことで、結果として、相手意識をもちお互いの思いや考えを認め合う学校の風土が涵養してきている。次年度も継続して学校全体で取り組み、児童一人一人を尊重した教育を充実させながら学校教育目標の実現を目指していく。

○学校行事、児童会活動、学級活動を中心に、児童の考えを反映させることができる場を積極的に設定し、主体的に考え行動する児童の育成を目指していく。

小　中　学　校　関　係　者　評　価

○様々な面で児童の成長を感じる。この学びの環境を今後も大切にして学校教育を進めていただきたい。

○異学年の児童同士のつながりが強くなっていると感じている。学校の縦割り班活動の成果である。今後も、児童同士の交流を深め、人とのかかわりの中で心が通じ合うことのよさを児童が感じながら学校生活を送れるようお願いしたい。

○児童は地域でも挨拶をし、元気に過ごしている。今後も、地域全体で児童を見守っていく。学校も継続して、家庭・地域と連携した教育活動を進めていただきたい。